本多日生上人名著在庫品特價提供

一聖語錄 改版 特價送料共 金壹圓八拾錢
一日蓮主義本領 仝 金貳圓拾錢
一法華經要義 仝 金貳圓五拾錢
一日蓮主義心髓 仝 金壹圓五拾錢
一日蓮主義精要 仝 金貳圓九拾錢

磯部滿事謹輯
一本多日生上人 特價送料共 金壹圓七拾錢

申込所 東京市外南品川妙國寺境内 「統一」發行所 振替東京五一〇七一番

一月刊「教」誌 定價一冊 金拾錢 送料 金五厘 一ヶ年前金 送料共 金壹圓貳拾錢

申込所 東京市外南品川妙國寺境内 「教」發行所 振替東京一〇九四〇番

統一 定價 一冊 金貳拾錢 送料五厘 半ヶ年 金壹圓貳拾錢 送料共 前金之事 一ヶ年 金貳圓貳拾錢 送料共

統一 廣告料 表紙一頁 金貳拾圓 前金之事 一頁 金拾五圓 半頁 金九圓 四分一頁 金五圓

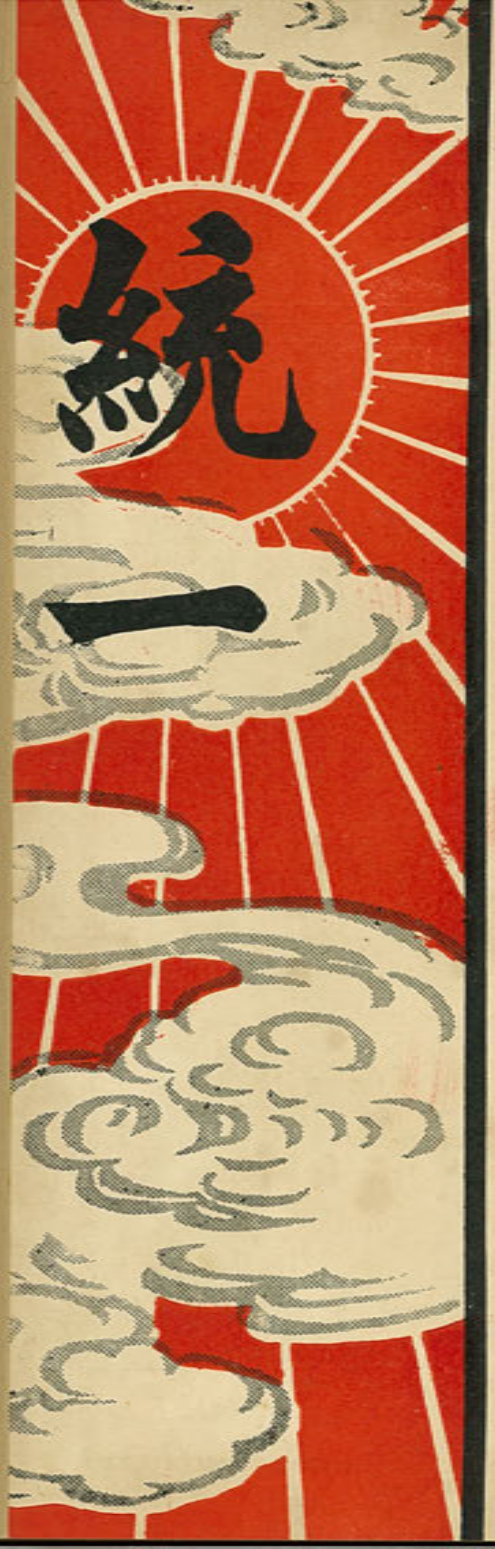
昭和七年三月廿四日印刷納本
昭和七年四月一日發行 (第四百四十五號)

神奈川縣横濱市磯子區磯子町廣地一四八
編輯兼發行人 磯部滿事
印刷人 鈴木日雄
東京府荏原郡品川町南品川百八十一番地
印刷所 都印刷所 電話高輪六〇二四番

發行所 統一發行所 東京府荏原郡品川町南品川四百十二番地 振替東京五一〇七一番

編輯事務ハ發行所ニテ取扱フ

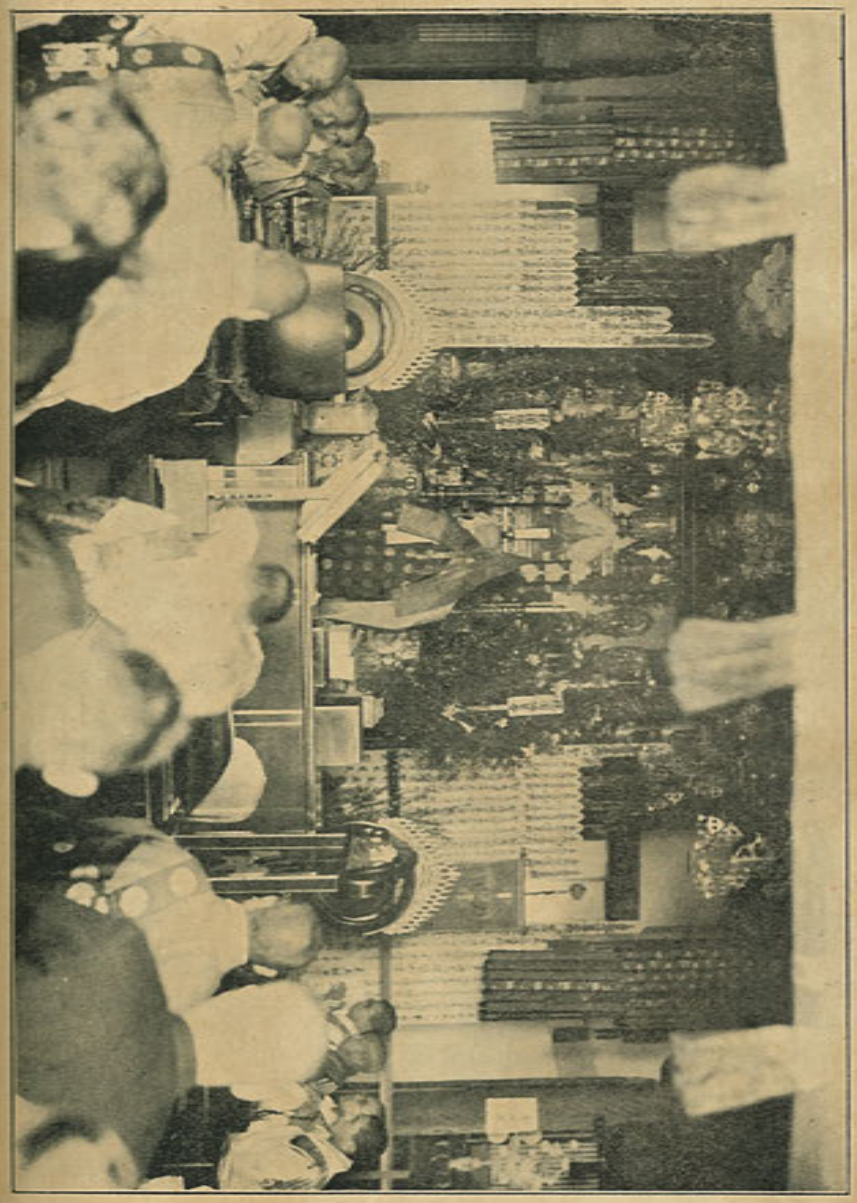
不許複製



目次

聖訓摘要……日生上人
法華經の信解……日生上人
滿蒙事變に對する將來の覺悟……影佐禎昭
開顯統一と日生上人(坤)……中村清一
記事
○統一團協賛會々報
○見聞錄
○團費誌料領收

第三十七年五月號



故日蓮聖人の二祖六人衆 | 三位日向師の像

聖訓摘要

日生上人

四條金吾殿御返事

それから其次の四條金吾殿御返事には

たゞ世間の留難來るともとりあへ給フべからず、賢人聖人も此事はのがれず。たゞ女房と酒うちのみて南無妙法蓮華經ととなへ給へ、苦をば苦とさとり樂をば樂とひらき苦樂ともに思合せて南無妙法蓮華經とうちとなへゐ（唱居）させ給へ。これあに自受法樂にあらずや、いよいよ強盛の信力をいたし給へ。（縮刷遺文錄一四四一）（致）

これは有名な御遺文であるが、世間の心配な事、災難のやうな事が來ても、それに依って精神を動搖させてはならない、人間は事なき時には平安な觀念があつても、何か出來ると狼狽へたり間誤ついたりするものだやが、これはいけない、眞の修養ある者は事に當つた時に其光りを見せなければならない、人間はいろ／＼迫害しやうとして居るのだやから、平生の修養の光が此處に現はれなければならぬ、何も少しも恐るゝことも心配することもない、『たゞ女房と酒うちのみて南無妙法蓮華經ととなへ給へ』これも能く前後を考へなければならぬ、たゞ何もないのに女房と酒を飲んで居れと云ふのではない、非常の

迫害が來た、これは主人から領分を取上げてしまふ、家も主人のものだから叩き出してしまふと云ふので、非常に迫害して來る、大抵の者なら眞青になつて居るといふ所ぢやから、近所から覗きに來るといふ譯である。四條金吾の家はどうして居るだらう、青息吐息だらうといふて覗いて見ると、夫婦で酒を飲んで居る、女房と差向ひで『オイ女房、一杯酌いで呉れ』といふやうな工合、そこを見せて居る、人は普通の場合なら平氣であるが、イザ心配事があると飯も咽喉を通らぬ、聖人賢人でも非常事に當つては動搖し狼狽するものである、けれども夫ではいかぬ、法華行者は不斷こそは夫婦仲好くしないでも、愈々大事であるといふ時には『女房一寸來い、一杯酌げ』これでなければならぬ、さうして酌いで呉れた盃を受けて南無妙法蓮華經！この中に萬丈の力があるさう思ふて見るとこの文章が一層能く判つて來るのであります、後も先も考へないでたゞ『女房、一杯酌げ』、まるで日蓮主義の女房は酒を酌がなければいかぬといふやうな事でやつて居るさうではない、さうして『苦をば苦とさとり樂をば樂とひらき』といふ其處が宜いのである、法華を信心したならば何も心配な事は來ぬといふやうな教へ方は間違つて居る、それは人生には矢張り苦しみも來るけれども、その苦しみに遭ふて狼狽をせず、其事々々に依つて、所謂悲しんで傷れず樂しんで溺れない所の精神の平和を得て、苦樂共にそれを超越して信仰の光に生きることが出來る。苦しい事樂しい事以上に、もう一ッ精神の歡喜を味ふことが出來るのであります、『苦樂ともに思合せて』といふのは超越的樂觀主義で、尋常一樣の苦樂を超えて、さうして南無妙法蓮華經と唱へる時分には何時も精神の平和があると云ふことが、これが『苦樂ともに思合はせ』るといふ事であります。そこが眞個の幸福ではなからうかと私は考へる、それ故に幸福のもとは信仰である、信仰をして居つたら何か幸福が來るぢやらうといふのではない、信仰それ自身幸福の力ぢや、來る來ぬではない、信心が弱ければ幸福が逃げる、信仰が強くさへあれば苦が來ても信仰の力で忍ぶ、樂が來ても度を過ぎぬ、苦樂を超越して居るのだから行くとして可ならざるものはない、苦に陷つては悲しみ、樂が來れば溺れ、苦樂ともに精神を動搖せしめて過りを取るといふことは信仰が足りないからであります、信仰、それが即ち總ての御利益の因になるのである、詰らない事を願ふものであるからして信仰を福の神のやうに思ひ、遊んで居つても錢が殖えるやうに思ふ、この五錢が一圓にならんか知らん、今度統一閣に行つたら五圓にならんか知らん、中々ならぬ、切めて十錢位にでもなれば宜いに、さういふ事をやつて居るのぢやから駄目なのぢや、そんな譯の分らぬことを宗教は願ふのではない、信仰の御利益といふものがそこに現はれて、萬事人生を渡つて行く所の力となり、機會となり、行くとして可ならざるなき所謂心濶く體裕かなる境涯に這入り、最期の息を引取る時にも安心して眠りに就くことが出來るのが宗教である、その意義がよく現はれて誠に有難い御教訓と思ひます。

法華經の信解（承前）

日生上人

然るに日本に於ては、明治の御維新前後から來つて、左樣な宗教罵倒の病弊といふものを有つて居る。錢湯に行つても、何でもない事に宗教を侮辱するやうな言葉を吐いて平然として居る者が多い、「南無妙法蓮陀佛」といふやうな巫山戯たことを言つて見たり、或は僧侶を捉へて「コラ坊主、糞坊主」と言つたり、又落語家のやうな者でも、口を開けば宗教を侮辱するやうなことを言つたりする。●●●にわか狂言などをやつても、坊主を引張り出して頭をポカ〳〵殴るやうなことをやつて見たり、宗教に對する侮辱といふものを公然と人の前でやることを、何だか面白い事のやうに思はせたといふのは、他の健全なる文明國には見られないことである。他の國に於てはそんな事をすれば親も兄弟も、又あらゆる社會の先進者が承知をしない、さういふ亂暴な事を言つたりしたりする者は社會的にこれを排斥してしまふ。若し學校の校長がそんな事をすれば、直に校長を罷めさしてしまふ、代議士がそんな事を言ふならば、モウその次には選擧をしない、警察署長がそんな事を言ふならば、民衆が警察へ押懸けて署長の頭を打割つてしまふ、社會は宗教に對する左樣な侮辱を許さぬといふだけの、社會的の制度といふものが文明國には皆なある。日本でも法律の上にはさういふ事が認められて居る、宗教の儀式に對して無禮をする者は

監獄に打込むことになつて居る、例へばお葬式で坊さんが引導を渡して居る、その後から行つて「ヤイ、この糞坊主」といふやうなことを言つたならば、さういふ者は捕へて牢に打込むやうに法律の上ではなつて居る。けれども今の坊さんはおとなしいから、そんな事を聞かされても平氣で居る。西洋人の流儀で行つたならば、日本には宗教侮辱の爲に牢に放り込まるべき人間は幾らも居る、「今日はどこの校長が坊さんの惡口を言つて牢に入れられた、」「今日は彼處の警察署長が佛教の惡口を言つて頭を割られた」といふやうなことが起るべきであるけれども、宗教家の方が穩かであるから喧嘩をしないで濟んで居る。本當は嚴重にやるならばさういふ亂暴な愚か者が日本には一パイ居るのである。

そんな事では到底健全な文明を維持することは出來ない、宗教は人の尊崇心の根本を維持するものである。それ故にその教を尊ばうと思へば、その人を尊ばなければならぬ、人を侮辱したる時、教が共に侮辱されるのであつて、日蓮聖人の御言葉にも、一切の草木は大地より生ずる、一切の教は人に依つて弘まるものである、土を無くしてしまつたならば大根も牛蒡も出來ないやうなもので、宗教家を侮辱してしまつたならば、決して宗教といふものは發達するものではない。ちやうど教育家を侮辱してしまつた時、教育の效果を擧げることは出來ない、その村の人間が寄つて蠅つて校長や教員を馬鹿にして、「あんな奴は馬鹿だ、」ちやうど糞坊主といふ代りに「糞校長、糞教員」、「生臭校長、生臭教員」といふやうなことを言ふて居れば、忽ち村の子供がその眞似をして教師を馬鹿にする、それで教育の效果が擧るか

どうか、決して暴るものではない。左樣な馬鹿氣た事をして、人間の尊崇心に關係する宗教を侮辱するやうな行爲を社會が制裁を加へないといふ、斯樣な暗愚な文明であつては、宗教の價値などはわかるものではない。如何なる場合でも、人といふものはさう完全な者は無いけれども、その事に當る者はやはりそれだけに尊崇しなければならぬものである。であるから佛教の教から言へば、昔は袈裟を掛けて居る者は繩を打つことが出來なかつた、縱ひその人間自身はどうあらうとも、苟も袈裟を着用して居る者は如來の使であるが故に、國法を以つてこれを縛ることが出來ない、そこで寺社奉行といふものを別に置いて、町奉行といふものはお寺の出來事には手を着けることが出來ないといふほどに尊崇された。斯して始めて宗教の尊嚴といふものが維持されたのである。そんな事ぐらゐはちよつと日本の歴史を研究しても直ぐわかる事である、左樣な事も考へなくなつた程、今日の政治家、教育家は馬鹿になつて居ると私には思はれるのである。

斯樣なことになつたのは何故であるかと言へば、もと〳〵知識の文明に於て、歐米の文化を我國に取容れる時分に、たゞ科學の知識のみがえらいやうに思つて、科學を過信した結果である。モット哲學の知識、宗教の信仰が人類文化の高等なものであつて、それが他のあらゆる問題を支配する原動力であるといふことを正解すべきであつたのに、その知識の程度がわからなかつた。宗教の信仰などは馬鹿にしても宜い、哲學の知識などは廻りくどいもので、そんなものは有つても無くても宜い、どうしても日々

の生活に必要なものは科學の知識ぢやといふので、醫學であるとか、工學であるとか、法律であるとか、經濟であるとかいふやうなことばかり熱心にやつて、哲學などは特殊の者が少しばかり大學の一部で研究を續けて居るに過ぎない。堂々として社會に立つ政治家でも教育者でも、一般の指導階級の人々は、哲學や宗教に就ては絶對に無知識である、これが日本の現狀である。それでは宗教の信仰といふものを正しく解釋することは出來ない。併ながらそんな人達が宗教を信解しないからと言つて、何も宗教そのものゝ價値が失墜した譯ではない。彼處のお醫者も信心しない、こつちの警察署長も信心しない、どこの校長も信心をしない、「だから宗教などはつまらぬものだ」……斯う思ふのが間違つて居る。それはそれ等の人々の頭腦が出來損つて居るか、或はさういふ風に間違つて教育されて居るのである。宗教を正しい意味に信解するに就ては、知識に於て今言ふ哲學の高き知識と、それから進んで宗教の信仰といふものが成立つて行くのである。これを尊崇しなければ偉大なる文明は出來ない。哲學を有せざる國家は亡びるとか、哲學を有たない文化は價値が無いとか、或は崇高なる宗教の信念を失つた時、社會國家は頽廢するものであるとかいふやうな、人類の歴史に於て大きな問題がそこに存するのである。故に苟も法華經に近づき、法華の信解に入つたやうな人は、宗教の信仰が左樣に大切なものであるといふことを能く了解して、左樣な暗愚な世の中の批評などを眼中に置くべき必要はない、彼等はいとも憐れな人々であると考へて、寧ろその人々を教へてやらなければならぬものである。

いま一つは宗教の信解に向はんとする人間の情操の側の考察である。今日の日本の文化は、知識に於て今申すやうな不明を有つ上に、併せて人間の情操の涵養といふことを怠つて居るのである。人間の情操といふものは非常に大切なものであつて、道徳上の情操として言へば親子の愛情、兄弟の愛情といふやうなもので、これは最も大事なことである。それを理窟で唯だ「親は子を愛すべし、子は親に孝行すべし」と言つて教へたならば、「それはその通りです」と言ふだけで、非常に冷たい人間といふものが出來てしまふ。それではいけない、親は親の温かなる情愛といふものに依つて子供を可愛がり育て、子は親を慕ひ、そこに親子の情愛といふものがなければ、本當の親子の關係とは言へない。その情愛といふものは即ち人間の情操である。

そこでその情操といふものは、道徳上の情操より更に進んでは宗教上の情操といふものを養はなければならぬ、これはやはりそれ〴〵育てゝ行かなかつたならば、決して發達するものではないのである。例へば人間が花を見て喜ぶところの情操、或は自然美に對するところの情操といふものでも、子供の時分からそれだけの考を養つてやらなかつた限りに於ては、人間は一生涯花などを見ても綺麗だと思はなくなつてしまふのである。現代の日本人の多くはさうである、女の人などでも、花ナンかは少しも綺麗だと思はぬ人がある、草花に水などをやるのは面倒臭い、亭主が留守ならば直に花を枯らしてしまふといふやうな人は隨分多い。さういふ人は自然美に對する情操といふものを養れて居ないから、花などを見たところが何も感興を起さないのである。これも小さい時分から子供が花を持つて「綺麗だナ」と言つて喜んで居るのを、親父が「ナンだこんなもの」と言つて、その花を捩切つて泥溝の中に放込んだりするやうな事をする、或は親父が朝顔の鉢を買つて來ても、母親が「面倒臭い、こんなもの」と言つて、親父の留守に椽の下に片付けてしまふといふやうなことを子供にして見せると、子供といふものは直ぐ眞似をするから、「お母さん、今度は僕が放込んでやります」と言つて、親父が又朝顔の鉢を買つて來ると、今度は子供が椽の下へ放込んでしまふ。そんな事を二三遍やつたら、一生涯その子供といふものは、花を見ても少しも美しいと思はない、直ぐ捩切つて捨てゝしまふやうになる。斯樣に花に對する美の情操といふものは發達しなくなつてしまふ、それは子供に對して二三遍やつて御覽なさい、實に恐しいくらゐである。それから繪なら繪を見て子供が「綺麗な繪だナ」と言つて居る、それを親父が「ナンだ、こんなもの」と言つて、そこらにある筆かなにかで、花なら花の繪に墨を塗りつけてしまふ、子供が繪畫に對する美感を以つて繪を喜んで見て居るのを、二三遍引裂いて捨てるとか、或は「こんなものを見るのではない」と言つて横面を撲るとかすれば、モウ子供は繪を見ても綺麗だといふことを言はなくなつてしまふ。それつ切りでその子供は一生涯、繪畫に對する美感といふものが發達しなくなる。音樂に對してもその通りである、琴を彈くとかヴアイオリンを彈いても、親父が無趣味な親父で「うるさい、やめろ」と言ふ、子供がその眞似をして「姉さん、うるさいヨー」といふやうなことを言ひ出し

たら、生涯音樂的の情操が發達しない、琴を彈いて居るのでも石油箱を叩いて居るのも同じやうに聞えてしまふ。私などはやはりその方に近いやうなもので、小さい時分からさういふことにあまり興味を有たなかつたものであるから、この頃になつてさういふ音樂などを聽いても左程感興を引かない、淨瑠璃などを聽いても「ア、面倒な話だ、うるさい」といふやうな氣になつて、耳がガン〳〵鳴つて居るのも淨瑠璃を語つて居るのも同じやうに聞える。

それと同じ事である、さういふ音樂とか繪畫とか、自然美とか宗教に對する崇高なる觀念といふものは、人間の情操に屬するものであるから、子供の時分に家庭に於て親が宗教の信念を有たず、社會に於ても今日のやうに宗教悔辱の風潮が行はれ、學校に於ても隱約の間に宗教を侮蔑せんとして居るやうな教育をやつて居る。さうして先輩先覺者といふものが、宗教に對する質問を提出したならば、「そんな事はお前どうでも宜いぢやないか」と皆な言ふのである、神樣がどうであるとか、佛樣が何であるとかいふやうな質問を出したならば、そのたび毎に必ず嫌な言葉を浴せる。「地獄極樂といふものはどういふものですか、」「そんなものはありはしない、迷信だ」と大抵の者は言ふ、子供が信仰といふものは大事なものだといふことをボンヤリ考へて「お父さん、法華經といふのはどんなものですか」と聞いても、親父は「うるさい、そんなことは寺の坊主にでも聞いて來い」といふやうに、必ず嫌なことを言つて兒童の宗教心理の萠芽といふものを破壞してしまふ。こんな亂暴な國は恐らくあるまい、斯樣なことをやつて居つて文明が發達するとか、社會が進歩するとか考へて居るのは實に暗愚な事である。

我國が斯樣な狀態でありながら、今まで程社會的に害が激しく起らなかつたのは、まだ〳〵口ではさう言つて居るやうだけれども、精神のどこかに宗教の情操も殘り、長い間の日本の道德的の感化、善良なる風習といふものが傳つて來て居る、さうして一方に國民性の國家的觀念といふものが强くあつたから、それで漸く維持して居つたのである。他の方面の人格が勝れて居る譯ではない、マア戰になつたら國が滅びては大變だといふやうなことばかり考へて居つたから、戰が無いといふことになると、日本人は直ぐグニャ〳〵となつてしまふ、戰爭の警鐘を打たぬ限りに於ては、日本人といふものは人格は頽廢し、思想は惡化し、社會は混亂してしまふ。戰といふ聲だけで奮起つ、ちやうど犬みたいなものである、ワン〳〵と吠えるその時だけは眼を醒ますけれども、あとはグウ〳〵寢て居る、敵軍が來たといふ時だけ眼を醒すといふのは、これは完全なる人格とは言へない。さういふ場合に元氣のあることは宜しいけれども、敵の無い場合は坐睡ばかりして居るといふことでは、人間としての生存の意義を成さぬではないか。

それ故にどうしても宗教の情操といふものは、家庭に於て、學校に於て、社會に於て、先輩者に於て、十分心してこれを養つてやらなければならぬ。一言でもそれを蹂躪したり、破壞したりするやうな言動は、その責任最も重大なりとして反省しなければならぬことゝ思ふのである。

それからモウ一つは宗教に對する要求として、宗教を研究する場合に、徒に宗教に囚れてはならないといふことである。或る者は宗教萬能といふ考で、世の中に宗教さへあつたら一切の事が出來ると思つて居る。個人で言へば、商賣もやめてしまつて信仰一筋に打込む、ちやうど大本教が教へたやうに、家業も廢めてしまひ、家も賣つてしまつて皆な綾部に集つて行くといふやうな、又天理教の中にも或る者はさういふ風な傾向を執つた者がある。佛教の中に於ても、熱心な人は、家業を廢めてお寺に居候をしたり、千ケ寺詣になつたりしてやる人もあるけれども、さういふ人は大に間違つた事ナンである。社會といふものはいろ〳〵の大事な事柄が寄り集つて成立つて居るのである、その大事な事柄——社會の政治とか、道德とか、教育とか、產業とかいふやうなものは、皆な宗教と協力して始めて成立つのである。極くザツと考へても、人間といふものは心だけでは活きて居ない、心は大事だけれども、それと同時に身體といふものがあつて活きて居るのであるから、身體に飯を食はしたり着物を着せたりするのは、宗教だけの手ではいけないのである。宗教ばかりやつて居つたならば、人間は皆んな素裸になつて食ふ物が無くて慄へ上つてしまふといふことになる、だからどうしても衣食住の方面と精神の方面と相俟たなければならぬ。そこで衣食住に關する文明も十分に發達せしめなければならぬ、それが爲に政治も、產業も、教育も、あらゆる文化が入用になつて居る、それと協力して宗教といふものは進んで行かなければならぬ。それを「イヤ宗教は己れの絕對の信仰と宇宙絕對の神樣との結付きであるから、人間の世の中ナンかどうでも構ひはしない」、「人間は神の子として考へたら親などは何でもないものだ」といふやうなことを言つて、無暗に神を信ずることに依つて、家庭の道德も、社會の道德も、又國家の道德も、そんなものは輕いものだやと教へて、たと「神樣の爲に、神樣の爲に」と言つて、親に不孝であつても、君に不忠であつても、「神に盡しさへしたならばあとは構ひはせぬ」といふやうな勢ひで宗教を信じて行つたならば、そこに社會國家の上に恐しい害毒が起つて來るのである。

宗教は高い文明ではあるけれども、併し一般の物質方面の文明と協力しなければ、宗教のみに依つて現實の人生といふものは營めるものではない。それ故に少くともその宗教と道德との關係、その宗教と國家との關係、その宗教と吾々の實際生活、所謂衣食住といふやうな生活との關係を十分に見て行かなければならぬ。その宗教が吾々の生活を脅したり、或は吾々の生活に害を與へたり、又國家なり社會なりに惡い影響を齎すといふならば、その點は宗教の方に於て改めなければならない事であるから、さういふ點は遠慮なく宗教に對してそれだけの注文をすれば宜いのである。

併ながら少し惡い所があつたからと言つて、全然いかぬといふやうに思つて、宗教に少しの弊害があつた、その弊害の爲に宗教全部を捨てゝしまふといふ風な考へ方をするのは、これ亦大に間違つた事である。何事でも人生に現れること、何等の弊害無しに行くものはない、弊害の方面から言ふたならば、日本の政治でも教育でも道德でも、けちを附けやうとして議論すれば幾らでもけちが附くものである。

宗教に少しばかりの非難すべき事があつたからと言つて、それが爲に全然その宗教を捨てゝ懸るといふやうな態度は、大に誡めなければならぬ。例へば日本の歴史に弓削道鏡といふ坊さんが出て我が皇位を覬覦せんとしたといふやうな一事を誇大に言ふて、それ一つがある爲に排佛論を以つて佛教に當らうとする。一方に於て傳教大師、弘法大師、日蓮聖人、その他の高僧又澤山の僧侶が出て津々浦々に至るまで日本人を教化して、今日までの日本の文化を建設したといふやうな功績は少しも言はないで、たゞ弓削道鏡が出て皇位を覬覦せんとした、和氣清麿の誠忠に依つて彼はギャフンと參つた、「妖僧肝膽寒し」といふやうな事ばかり言つて、佛教が日本の文化に多大なる貢献をした永い間の歴史を不問に措いて、たゞ一惡僧の事だけを繰返し〳〵言ひ立てるといふやうな遣り方は宜しくない事である。モット堂々と佛教に對して要求するならば、その佛教の内容に厭世的の事があればそれは矯正するが宜しい、非國家的の所があれば是正するが宜しい、或は迷信の所があるならば大に改善するが宜いけれども、それが根本に於て理想的なる宗教であることを認め得たならば、十分に拜跪合掌して、文化建設の要素としてこれを傳立てゝ行く、たゞ自分が信ずるばかりではない、廣く國家文教の上に於て佛教の立場を愛護して、日本文明の爲に役立つやうに育て上げるといふことを心懸けなければならぬ。

以上申したやうな、宗教の信解に進まんとする場合に、知識の程度の問題、或は情操涵養の問題、或は宗教に對する要求、これ等の事は、凡そ常識として一般人が了解して居るべきで、その位の事は文明人一個の資格として當然有つべき事であると思ふ。それ等の常識も有たない者が出て來て、くだらない事をゴテ〳〵言つたところが、それは箸にも棒にも掛らぬといふものである。諸君も宗教の信解に進んで行かうとするには、先づそれだけの準備をせられる事を希望するのである。（次續）

滿蒙事變に對する將來の覺悟

參謀本部支那班次長
前支那公使館附武官　砲兵少佐
影佐禎昭

去る九月七日のことでありました、丁度當日は支那の南京政府並に國民黨の樞要なる人々が集つての公開の席上で、支那の元首である所の蔣介石が公然次の言葉を叫んだのであります。彼が曰く、現在日本は南京政府と反對の立場にある廣東政府に對して武器を賣るとか云ふ風な色々なことをやつて支那の内亂を助長して居る。斯の如きことを行ふ所の日本國は既に文明國たる所の資格はないと言つたのであります。私は支那に關する參謀本部の事柄に携つて居りますので、明かに日本の國が廣東政府に對する非禮をして居つたことは全然ないと云ふことを斷言致すことが出來るのでありまするが、玆に百歩を讓

り千歩を譲つて、假令日本國が斯の如きことをして居つたに致せよ、それに依つて日本の國が文明國の資格がないと云ふならば、支那のやうに年々歳々内亂が絶えない、而も外國に對して外國との間に結んだ約束を之をボロ證文のやうに踏倒し、馬賊は國を擧げて横行致して支那人は勿論のこと、支那に居る所の外國人の生命財産は非常な脅威を蒙つて居ると云ふ風な國が、何處に日本國が文明國であるかないかと云ふことを批評する價値がありませうか。諸君、文明國と申しまするのは吾々の常識で考へたならば、それは紳士の國であると云ふ意味であります。紳士の國である、人と人との交際の上に於ても一番大事なことは眞と云ふことであります、それと同樣に國と國との交際も眞と云ふことが最も大切なる事柄であります。然るに支那はどうかと申しますると、惡意で日本の國を全然敵と見做して居りまして、假令戰爭と云ふ形式を執つて居りませなんだけれども、ボイコットをやるとか、或は經濟斷交をやるとか云ふ風なことを絶えずやつて居りまして、是等は總て國際關係の部門を案ずる所の行動であります。我國も不戰條約に入つて居りまして正當防衛の手段の外は國策を行ふ爲めの戰爭は行はれないと云ふことは誓つて居りまするけれども、さりとてボイコットをやつても宜い、經濟斷交は自由にやつても宜いと云ふ風なことであるならば、國際間の圓滿なる關係と云ふものは一日も成立つて行く譯はないのであります。元來此約束と云ふものは守る爲にするのが約束であります。國と國との間の條約、又强ひて支那のやうに初から約束を守らぬと云ふやうな國家であるならば、約束と云ふことが既に無駄な話であります。然るに支那側は其約束、即ち條約に對して如何なる考を有つて居つたかと申しますると、先程も申上げました通りに日本と支那との間に結ばれたる所の二十一箇條の條約、之に對する支那側はそれは日本が壓迫して結んだ所の約束である、支那の不承々々結んだ所の約束である、斯るが故に支那は之を守る義務はないと云ふ風に申して居ります。若しも斯う云ふ風な議論が成立つものと致しますれば、日清戰爭の結果、日本は遼東半島を領有致しました。然るに露西亞、佛蘭西、獨逸、此三國が手を聯ねて日本を壓迫して支那に遼東半島を還さしたのでありますが、然らば日本は此三國から壓迫されて此遼東半島を還したのであるから、是は無效である。隨て遼東半島は今でも日本のものだと云ふことが言へる理窟であります。又如何なる戰爭に於ても勝つた方は宜い儲けをするし、負けた方は忍んで惡い約束に調印をしなければならぬのは、是は昔から決つた運命であります。其際に暫らく經つて負けた所の國が、あれは俺が不承々々約束したのであるからして無效だと云つても、是は成立ちませぬ。又日本と支那との間に結ばれて居りまする所の日支航海通商條約と云ふものがありますが、是も支那はどう申して居りますかと言ひますと其條約を結んだ所の狀況と只今とは時勢が變つて居る、時勢が變つて居つた前の時に結んだ所のものは今は守る必要はないと云ふことを述べて居るのであります。色々支那人が考へた屁理窟でありますが、是は條約を踏倒す爲に考へ出した屁理窟であります。だから幾ら道理を敎へても、破る爲に作り上げた所の屁理窟は是は幾ら敎へても敎へるだけ野暮であります。幾ら法律上の名論卓說を支那に敎へて聞かした所が支那に取つては三文の價値もありませぬ。聽く耳を持つて居らぬ所の支那に對して說敎をしても是はする方が野暮であります。それで親が子供に對する場合に於きましても、色々子供に理窟を言ふて聞かしても分らぬ場合には親が時として之に打擲折檻をすると云ふやうな、是は本當に親が子供を愛するからであります。子供が憎いからではありませぬ、道理を言ふても分らぬと

云ふ時に萬策盡きて折檻をするのでありますが、日本と支那との關係も然りであります。日本は當然支那と手を握つて行かなければならぬ立場にあるのでありますけれども、斯の如き沒義道なことを言ふ所の支那、斯の如き義理を知らぬ所の支那に對しては、もう是は說敎は駄目で折檻を下すことは絕對に必要であります。是は絕對に日本は支那が憎いから折檻を下すのではなくて、日支親善の爲に加へる所の折檻である。日支親善と云ふのは如何に支那が出鱈目を言つて沒義道なことを言つても、無賴漢のやうなことをやつても御無理御尤と云ふやうなことが、決して日支親善と云ふことではないのでありまして、之を正しい方向に導いて行く、さうして正しい方向に行つた所の支那と日本と組んで行くと云ふのが是が本當の日支親善と謂はなければならぬのであります。所が支那は約束を紙屑同樣に取扱つて居る、日本の權利などは是はもう片端しから踏み潰すと云ふやうな手段に出て居ります。日本の生命財產は支那の爲に脅威を蒙つて居るのでありまして排日は年中行事である。斯う云ふ風な支那に對しまして只今申しました如く折檻を下さなければならなかつたにも拘らず、日本は好く言へば隱忍自重、惡く言ふならば頗る軟弱なる態度を以て今日迄來つたのであります。所が支那は此日本の頗る君子のやうな態度と申しまするか、非常に卑屈と申しまするか、斯の如き態度に對して如何に考へたかと申しますると、日本何事も爲し得ないと結論を下してしまつたのであります。

斯の如く日本を侮辱致しました擧句は、滿洲に於ては日本の權益が事每に侵略せられ、既にドタン場に追詰められると云ふ狀態に立到つたのであります。斯の如く支那は日本を侮辱して排日をやり侮日をやつた擧句の果ては支那が日本に對して公然日支開戰論を主張する迄に立至つたのであります。

去る九月の初のことでありますが、奉天の參謀長を致して居りまする榮臻と云ふ男でありまして、彼が奉天の或る宴會の席上、而も其宴會では日本の武官も混つて居つたのでありますが、其席上彼が言ふのに、此頃我輩の部下は非常に强がりを言ふので困る、色々滿洲の問題に付て日本との間に紛爭を來して、此上は一度日本に對して戰爭をやらなければ解決が付かぬと云ふやうな强硬論を主張するので之を抑へるに洵に苦勞をしたと云ふ風なことを述べたのであります。丁度吾々が言ふやうなことを彼は言つて居ります。又言ふのに、日本は戰爭は强い强いと言つて居るけれども、戰爭の稽古は年々秋にやる所の機動演習だけである、而も此機動演習たるや空砲の演習であつて當つても死ぬ筈はないのである。所が支那の方はどうであるか、年々歲々實彈の出る所の戰爭をやつて居るんだ、而も四億萬人を數ふる所の大衆があり、國は大きい、日本はどうか、細たる島國ではないか、此狀態で以て支那が日本に負ける筈はないと云ふ風なこと迄申して居るのであります。私が支那に居りました當時は最も支那人が日本人を非常に馬鹿にして居つた時期でありまして、或る支那人、而も其支那人は日本の士官學校を卒業し、東京に來て公使館附武官迄やつた男でありますが、それが私の所に來まして言ふのには、今支那人の頭は決して日本人を恐れて居らない、それは物質文明に於ては支那は日本よりも劣つて居るかも知れぬ、併ながら日本よりも支那の方が戰爭すれば負けるかも知れない、けれども亞米利加とさへ手を握つて居りさへすれば、日本と支那と戰爭が起つた場合には、必ず亞米利加が支那に加擔して呉れる、さうして亞米利加と日本と戰爭した時には必ず日本が負けるから支那としては少しも日本に遠慮することはない、學ぶことも要らない、亞米利加とさへ手を握つて居ればいゝのだと云ふ風に支那人が思つて居る、だか

ら貴方――私のことでありますが、――國に歸つたならば一つ日本人に能く言ふて聞かして餘り無理を言はぬで遠慮をして貰ひたいと云ふやうなことを述べたことがあります。事實私は支那に於きまして色々な支那人に遭ひまして彼等の心理を分解して見ますると云ふと、大概の人はさう思つて居る。それは總て日本の實力が然らしめたものではなくして、日本の支那に對する外交が軟弱であつたからであります。

斯の如き狀態で日本を侮辱致しまして其結果があの萬寶山事件であります。又長春に於て富山縣人が非常な侮辱を支那人から受けた事實があります。是は皆さん御承知かも知れませぬが今年の夏でありますが、富山縣人が長春で縣人會を開きまして其後に婦人がトラックに乘つて歸る途中であります、トラックの運轉手が間違つて支那人の人力車夫にぶつかつて多少の怪我を負はしたのでありますが、其際に其邊の野次馬が集つて、終ひには警官兵隊まで集つて來て其婦人連中をトラックから降ろして非常なる侮辱を加へた事實もあります。其他最近に於ては中村大尉の虐殺事件と云ふやうな風に數へ來れば支那が日本に對して不法行爲をやつて解決付かぬ所の問題だけが滿洲だけで三百件以上あります。是は解決付かぬ問題でありまして、全然支那側の惡いことが分つて來たので、如何にするい支那も辯解の餘地がなくなつて日本の前に頭を下げた件數までのものを加へましたならば是は何千件あるか分らぬのであります。即ち今申しましたやうに逐次日本を侮辱して參りました擧句が、九月十八日の夜南滿鐵道に對する支那側の鐵道爆破事件であります。當時日本の輿論が非常な激昂を致して居りましたのでありますから關東軍は國民の絶大なる後援の下に在つたのであります。幸にして我が軍の進む所洵に疾風迅雷の如く到る處に支那軍を驅逐致しまして只今滿鐵沿線は

勿論のこと、其他必要なる要點を占領致しまして日本人並に朝鮮人の生命財產を保護し、鐵道線路を擁護致して居るのでありまするが、只今申しました如く日本軍隊の立ちましたのは支那側の度重なる所の不法行爲、日本に對する侮辱が遂に日本人の生命財產に危害を加へるやうに立到つたからして立つたのであります。即ち我が軍隊の行動は自衛の範圍から一歩も出て居らぬのであります。國際聯盟などで殊に問題になりました例のチ、ハル事件、是なども正當防衛の範圍からは一歩も外へ出て居らぬのであります。

之に付て先づ一例を申しますと云ふと、チ、ハルの事件と申しますのは滿鐵の沿線の四平街からチ、ハルの方に行つて居る所の鐵道でありますが、此鐵道は元來日本が支那に金を貸して造らした所の鐵道であります。鐵道は出來上つて、六箇月後に金を拂はぬ場合には借金の形式に書換へると云ふ約束になつたのでありますが六ケ月經つても金を拂はない。拂はないのみならず、借金の形式に書換へることも承諾しない。支那流の言を左右に弄して日本の要求に應じませぬ、只今に至る迄此金約三千萬圓と云ふものは現金は固より利子一文も拂つて居らぬのであります。隨て其鐵道は金を拂はぬ爲に滿鐵の財產であると云ふ風に見做し得るのであります。所が此鐵道は是から逐次其地方の出廻り時期になるに從ひまして非常に重要なる役目を努むる所の鐵道であります。所が此鐵道がチ、ハルの南の嫩江と云ふ河があるのでありますが、其河の上を通つて居る所の鐵橋、是が名高い馬占山、山のやうな男の軍隊に壞はされたのであります。所が只今申しましたやうに此鐵道は段々大事な時期になり、此嫩江の河が凍つて終ふから、凍つてしまふと、交通が困難であるからして支那に早く修繕をしろと云ふことを申したのであります、所が支那側は應じない、應じない結果は

是は當然日本で以て修理しなければならぬと云ふことになりまして支那側との話合ひが濟んで支那も宜しい、修繕をして呉れと云ふことになりましたので、日本の方は軍隊を出したのであります。所が支那側は其軍隊に對して不法にも射撃を加へたのであります。降りかゝつた火の粉は拂はなければならぬ、拭はなければ身體が燒けてしまふ、そこで日本の軍隊は支那の軍隊に向つて應戰を致したのでありますが、山のやうな男も案外輕く引繰り返りまして北に逃げたのであります。到る處から軍隊を集めて八十二萬からに達したのであります。其他チヽハル方面に集つて居る所の軍隊は僅か二千にならぬ數であります、支那は大砲六十、日本はと言へば二十門と云ふやうな割合でありました、所が此滿鐵方面に於ける支那側の軍隊は矢張簡單に吹つ飛んだのでありますが、馬占山は多少抵抗したのである。そこで是が支那本土に聞えまして馬占山は英雄であると云ふやうなことになつた、馬占山としては英雄に祀り上げられた此名前に對しても多少はシツカリやらなければならぬと云ふことで、二萬の軍隊を集めて軍備おさ〳〵怠りなかつたのでありますが、遂に我が軍隊の少いに乘じて攻撃に出ました、そこで日本の軍隊も應戰をして之に對して攻撃をしたのでありまして、吾々の考では二晝夜懸るだらうと思つたのでありますが、やつて見ると一晩で以て取つてしまつた、私共は日露戰爭以來どうも日本の軍隊は弱くなつたんぢやないかと云ふやうな心配を致したのでありますが、此度の滿洲事變で見ました決して日本の軍隊は弱くないと云ふこと迄分り非常に安心致したのであります。其一例としまして此鐵道の爆破事件が起りました所の地點は奉天の直ぐ北の北大營と云ふ所であります。北大營の直ぐ側に兵營がございました、其の兵營の支那の軍隊約七千、一旅團と云ふ所の軍隊が居るのであります。鐵道の爆破を發見致しまして我が守備隊が之を追撃致しましたが、其北大營の兵營に逃げ込んだ、其守備隊の中隊長が率ゐて居た所の兵數は僅か七十名であります。此中隊長は僅か七十名の部下を以て七千人居る所の北大營を占領する決心をしたのであります。洵に昔から一騎當千と云ふ言葉がありますが、一騎當千迄も行きませぬが、少くとも一騎當百でありました。此決心は頗る勇敢でありましたが、天佑なるかな一度其日は眞暗の暗夜でありました。支那の軍隊は兵營に飛込んで窓から日本の軍隊に對して射撃を致しました。後から行つて分つたのでありますが、チヤント射撃の設備が出來て居つて、窓の下には彈が準備致してありました。所が只今申しました通り、外側は眞の暗夜である、支那の軍隊は部屋の中の電燈を消すことを忘れて居る。日本の軍隊からは能く支那の方が見えるが、支那の軍隊からは日本の軍隊が見えない、所謂亂射亂撃、鐵砲を持ちながら、無鐵砲なる射撃を致したのであります。其結果我が軍隊の方は僅か二名の負傷者で以て北大營の兵營を占領致したのであります。其時に面白い話は占領を致しまして前進をすると云ふと、兵營の隅に君が代の吹奏が聞える。どうも不思議だと思つて行つて見ると支那の軍隊がもう萬策盡き　我が國歌を吹奏をして憐みを乞ふて居つたのであります。是は如何にも支那式であります。支那は戰爭もさうであると同樣に外交亦然り、此方が强く行くと云ふと終ひには敵の國の國歌迄吹奏して憐みを乞ふて居る。弱く行けば增長を致して日支開戰論迄主張する所の支那軍隊も、負ければ敵國の國歌を吹奏して多少でも許して戴きたいと云ふ悲鳴を擧げるのは洵に味ふべきことであります。

單に今のは一例を申上げたのでありますが、總て斯の如く日本のやりました行動は正當防衛の範圍を一歩も出て居らぬことは是は確かな事實でありま

す。斯の如く日支開戦論迄主張致しました所の支那の軍隊も、戦つて見ると案外簡單に日本にやつゝけられた。そこで一つ戦法を變へまして泣言を並べ、色々の嘘八百を列ねてさうして世界各國に放送致しまして國際聯盟並に亞米利加の同情に依つて日本の國を壓迫しようと云ふ所の所謂他力本願主義を執つたのであります。他力本願だけならばまだ可愛いのでありますが、一方さう云ふ風な方法でやりながら、片方では便衣隊を作つて日本の軍隊の背後を攪亂して、日本人並に朝鮮人の生命財産を脅す行動に出たのであります。さうすると日本の方の軍隊も便衣隊の討伐の爲めに、軍隊の一部を割くと云ふことは當然であります。さうすると支那側は、それ日本人が事態を擴大したと云ふことを以て世界に宣傳します。國際聯盟は一も二もなく、事件が擴大したと云ふことを以て日本を壓迫します。支那側はそれ我事成れりと云ふことを以て又便衣隊を使つて攪亂する、さうすれば日本の軍隊が出動する。言換れば事態を擴大したのは國際聯盟と便衣隊と謀同してやつた仕事であります。日本に向つて事態が擴大したと責めるのはお門違ひで其責任は半分は國際聯盟半分は便衣隊を出した支那側自ら負擔しなければならぬのであります。所が國際聯盟は故意か無策か、支那の宣傳に乗せられまして、其結果十一月の十三日でありましたか、理事會では十三對一と云ふ光榮ある結果に到達致したのであります。其主張はどうかと申しますると、日本側の主張は生命財産が安定するやうな時機になつたならば、日本は撤兵致さう、斯う言ふのであります、支那側の方は先づ日本が撤兵して呉れ、さうすれば日本と支那との間に何とか話が付くと云ふのが支那並に此支那の後を援助して居る所の國際聯盟の一般の主張であります。日本の軍事行動を起しましたのは、先程も申しました通り、日本人の生命財産が危險になつたからして出兵

を致したのであります。だからして此生命財産の脅威がなくなる迄は撤兵が出來ないと云ふことは、是は三つの子供でも分る話であります。支那側のやうに先づ撤兵をして何とか話を付けやうと云ふのは、是はもう聽くことが出來ないのであります。と云ふのは今迄何時も日本は其手で以て一杯參つて居る、支那の言ふ外交と申しまするか、策略に乗つて居る。實に日本は世界一の正直な人でありますからして、一番ずるい支那には何時もクル〳〵引廻はされて居つたのでありますが、今度と云ふ今度はもう一遍さう云うやうな目に遭ふと云ふことはもう御免を蒙りたい、今迄隨分高い月謝を拂つて苦しい目に逢つたのであります。今度と云ふ今度はもう之を最後として其手に乗りたくないと云ふことは、是は吾々の決心であります。元來此理事國と申しますると、其中にはグワテマラとかパナマとか言ふやうに、此前地圖を半日も探して漸く見付かつたのであります

が、さう云ふやうな小さな國も入つて居るのであります、一も二もなく乗ぜられると云ふことはどうも可笑しいのであります。日本の言ふことは是はどうも疑はしいと云ふやうな譯で取上げない。然るに拘らず、嘘八百を言ふものと昔から相場の決つて居る支那の宣傳を一も二もなく取上げると云ふことは、是は唯支那に對する認識不足とは說明出來ぬのであります。私は必ずや理事會の諸君は故意に支那の宣傳に乗つて居るのぢやないかと思ふのであります。何となれば滿蒙問題が解決付いて日本が立派に自給自足が出來ると云ふ風になることは、是は外の理事會の連中は決して望ましいことではないのであります。滿蒙問題が完全に解決付いたならば、日本は完全に自給自足が出來る、さうすれば日本に對して經濟斷交も出來なければ戦爭も出來ない。斯う云ふ風な國にするのは、是は決して他所の國は喜ばしいものではない、心の中にはヤキモチを焦いて居る

に相違ないのであります。但し滿洲問題は日本に對しては死活問題であるが、他所の國に取つては命を懸けて爭はねばならぬやうな問題ではありませぬ。日本に取つてこそ生きるか、死ぬかの問題であるが、例へば英吉利などの國としては滿洲問題の爲に日本と戰爭しなければならぬと云ふ譯合ひの問題ではありませぬ。唯心の中では餘り日本が成功して吳れては困ると云ふやうな考を持つて居る、隨て戰爭迄して日本と爭ふ覺悟はないけれども、今迄の日本の外交から見て少し突張つたならば、日本は多分後へ退るであらうと思ふが、所が今度と云ふ今度は挺子でも退らない、國際聯盟の諸公は頗る案外に思つて居りまして、最後は面目問題である、面目が立たないから何とか日本は我を曲げて吳れないかと云ふやうなことでありますが、國際聯盟は面目問題に携つて居る、日本は生きるか死ぬかの此死活問題を捨てると云ふことは以ての外のことであります。是は絶對に出來ないのであります。如何に面目問題を說いても日本が挺子でも動かないと云ふので最近のやうに理事會の決議が好轉を致しました、理事會の決議が有利に日本に轉換したのでありますが、是に於ても吾々は教訓を得たのであります。詰り國際聯盟などは强く出れば向ふは引込むのだ、國際聯盟と云ふものを非常に超國家的の存在と云ふ風に間違つた考を以て國際聯盟の言ふことは一も二もなく其前に平伏すと云ふやうな考は、是は根本的の誤であつて押せば退ると云ふのが國際聯盟の本質であると云ふことが此度確かに吾々の胸に聰へたのであります、何故國際聯盟はそれ程恐るべきものでないかと云ふことは、是は先程も諄々として御話になりましたが、國際聯盟なるものゝ無力なる證據には、彼等が最後の手段たる所の經濟封鎖、是は露西亞のやうな生產も分配もすべて國家が統制出來るやうな國ならば、或は外の國に經濟封鎖を行ふことが出來るかも知れませぬ、併ながら其他の國家のやうに自由主義の經濟組織になつて居る所の國が、而も日本のやうに世界的に大なる經濟力を有つて居る所の國に對して經濟封鎖を行ふが如きことは、是は到底不可能でありまして彼等は犧牲こそ豪れ、日本に對して大なる打擊を與へることは全然不可能であります。何となれば、若しも外の國が日本に對して經濟封鎖をした場合には日本は是だけの海軍を持ち、是だけの陸軍を以て手を袂に入れて見て居る筈はないのであります。しかして必ずや陸軍を以て支那の要塞を占領し、滿洲は二時間の間に占領し外の國と支那の國の貿易は根本的に壞はすことが出來ると云ふ譯でありまして、外の國が經濟封鎖をしても日本は滿洲支那を後ろにしてこちらから生產品を送る、五年や十年は愚かなこと、百年も堪へることが出來るのであります。それのみではありませぬ。今迄日本が外交的に軟弱であつたのは亞米利加とか或は英吉利の國と經濟的に餘り脈略が密接であり過ぎたからである。若しも經濟封鎖を行つた場合にはそれこそ之を絶好の機會として日本と滿洲との間に經濟組織をすつかり致して永遠に亘る自給自足の途を講ずることが出來るのでありまして吾々としては寧ろ此經濟封鎖をやつて吳れたら宜いと云ふやうな氣がするのであります。之を反對に考へますれば、斯の如く日本に對して痛みを與へない、犧牲は自らであると云ふやうな經濟封鎖は日本に對しては行つても無効である、行ふことは全然無いと云ふことになるのであります。

次に亞米利加の問題でありますが、是は先程既に申上げました如く經濟上から觀ましても、殊に軍事的に觀ましても何等恐るゝ所はないのであります。

（中略）

次に英吉利の態度は吾々は怪からぬと思つて居ります。日本は英吉利と日英同盟を結んで居つた、さうして日本は日英同盟の最も正直なる實行者として

英吉利の爲に印度に派遣をして居つたのであります。殊に最近歐洲大戰に於ては地中海まで艦隊を派遣してやつたり致したのであります。其恩をも忘れて今度の態度は何でありますか、是は色々研究しましたが揚子江方面に於ける英吉利の商權、尤も揚子江の文化を開發しましたのは英吉利の賜であります、其後逐次日本の進出に依りまして英吉利の商權が衰へたのであります。只今上海にあります紡績工場、是も英吉利は一つか二つしか工場がないのであります、日本は四十位と云ふ風に逐次揚子江地帶に於ける英國の商權は衰へて參つたのであります。是が第一の日本に對する癪の種なのであります。之を日本と支那との今度の葛藤を利用して何とか旨い汁を吸はふと云ふのが彼等の本當の考であります。吾々から觀れば昔の日英同盟の間柄である、何とか日本と支那との葛藤を早く纏めやうと云ふのが普通の人の考でありますが、英吉利は既に箍が緩んだ老大國である、昔は紳士であつたと思つたが、今のやうに赤字が出ては紳士の體面も出來ない、赤裸々なる算盤勘定ばかりをする箍の緩んだ國になつてしまつたのであります。所がそれも日本と戰爭までしてやると斷然出て來ることは出來ない、此上日本を壓迫すると終ひには印度が危ぶないと云ふことに氣が付いたので日本に對して逐次抗議を申込んだのであります。

次は露西亞であります。露西亞が馬占山に鐵砲を貰つたり或は自分の方から將校をやつて馬占山を援助すると云ふ態度に出たのは事實であります。何となれば北滿洲に日本が發展しますと露西亞としては非常に困るのであります。北滿洲には色々な物資が出ます、此物資を露西亞は東支鐵道で浦鹽に持つて行かうと云ふ計畫であつたのであります。隨て東支鐵道の周圍の黑龍江省に日本の勢力が加はると露西亞に對して脅威であります、露西亞の極東政策の破

綻であります、であります從から成べくならば日本の侵入を防ぎたい、それが爲に黑龍江省に居る馬占山を援助したいと云ふのは露西亞として當然の考であります。併ながら露西亞は例の五箇年計畫をやつて居る最中であつて國全體を擧げて戰時狀態のやうな有樣になつて居るのであります。此上日本と戰爭することは到底堪へ難い所であります。何となれば現在が戰時狀態である、此上日本と戰爭すれば戰時狀態のダブルが出來る、ダブルの戰時狀態は堪へられない、であるから現在の露西亞としては五箇年計畫を完成した後に策するのが當り前であるが、私共は何とか露西亞を引張り出して今是れと決戰して若芽の間に摘む方が策戰であると考へて居るのであります。それだけに露西亞が日本と戰爭をすると考へることは不可能であります。

只今申上げました如く、國際聯盟の方も亞米利加でも英吉利でも露西亞でも決して現在は日本として恐るゝことはない狀態であります。是に於て吾々考へることは今まで日本はどうも外國に對して其力を頼り過ぎたことであります。詰り日英同盟で兄弟分の仲であつた英國の態度が既に然りであります。他所の國の如きは今日を以て明日を知り難い狀態であります。今までの日本の態度は外國に頼り過ぎて居つた。唯頼みになるのは自分の力のみであると云ふことが、今度の各國の態度に依つて十分吾々は知り得たのであります。後に申上げますが、滿蒙が日本の生命線であると云ふ意味は、滿蒙さへ日本が取つて置けば——取つて置けばと云ふのも懷ろに入れるのではなく、滿蒙に日本の帝國的力が伸びて彼處から完全に物資が得られる、何等妨害なく日本に生產物が得られる、即ち外國の勢力が滿蒙に蔓延ることがなければ經濟上國防上安全である。所が反對に日本が滿蒙から手を退くと露西亞の勢力が入ることは明かである。さうすれば再び日本は過去の日露戰爭

を繰返さなければならぬ狀態になるのであります。斯の如く滿蒙は國防上、經濟上どうしても日本の勢力下に置いて置かなければ立つて行けない、又是が東洋永遠の平和を策する所の所以であるのでありますから、他の事ならば多少我を曲げても餘り國際關係を惡くしないやうに何とか好い顏をしなければならぬことがありませうけれども、今度ど云ふ今度は生きるか死ぬかの問題である、是だけは理事會が何と言はふと第三國の干渉が何であらうと日本は生きるか死ぬかの悲慘なる叫を擧げて居る大問題であります。之を他所の國の干渉に依つて曲げることは出來ない、理事會が將來如何なる方面に向つて轉換するかも知らないが、併ながら如何なる方面に轉換しても、先程申した通り國際聯盟たるや決して力あるものではなく無力なものである。又他の國も現在日本に對しては何等積極的行動が出來ない狀態にあると云ふことを考へまして、日本としては各國の干渉の如きは斷乎として排擊して勇往邁進しなければならぬのであります。又假令各國が日本に對して壓迫を加へる實力を持つて居りましても生きんが爲の要求は何としても貫く外に途は全然ないのであります。若し各國の壓迫の前に膝を屈したならば日本は生命線を斷たれてしまふのであります。將來永久に日本は不安の狀態に立至るのであります。元來日本はずつと昔には金銀財寶が非常にあるやうに思はれて居りました。マルコポーロの旅行記にも日本には金銀財寶が澤山あるやうに書かれて居るさうであります。コロンブスもマルコポーロの旅行記を讀んで日本を發見しようと思つて出て來て亞米利加大陸を發見したと言はれて居りますが、現在は日本で出來る物產では到底日本人を養ひ得ない。日本の人口は之に殖民地を加へますと優に九千萬、人口は非常に澤山ある。其證據には十町四方の中に日本人の數は約百三十五人であります。然るに支那は四十二名、露西亞に至つては僅か七名であります。所が此百三十五人と云ふのは富士山の天頂まで住めるものとしての計算であります。どうも日本は山が多い、日清戰爭後に李鴻章が日本に參りまして汽車から見ると山の頂上まで畑を耕して居る、之を見て日本は貧乏な國だと言ふたさうでありますが、洵に山が多いのであります、斯くの如く狹い國の中に人が非常に多い、而も年々百萬人も殖えて來ると云ふ狀態であります。隨て生活の脅威が田舍と言はず都會と言はず惡魔のやうな狀態で差迫つて居るのが日本の現在の狀態であります。人が殖えても生活する土地があれば問題はない譯でありますが、現在日本は自給自足が出來ないのであります。生活と申しますと衣食住であります。生活と申しますと衣食住でありますから衣食住で觀ますと、所謂瑞穗の國と考へて居つたのであるが現在に於ける日本は米が足らない、食糧品を年々外國から四億圓も五億圓も買ふやうな有樣であります。其他肥料などは一年に一億五千萬圓も輸入して居るし、又豆、麥、砂糖にせよ食糧品は殆ど外國から輸入をしなければならぬ狀態であります。着物にしましても絹の外は日本のものでは足らない、或は羊毛にせよ綿布にせよ總て日本のでは足らない。住居に致しましてもセメント位しか出來ませぬ。其他色々の生活上必要な品物が到底日本では自給自足が出來ない、それを滿洲に求めますと是は殆ど他所の國とは關係なく滿洲だけと手を握つて居れば生活出來る狀態でありまして、所が色々調べますと護謨が出來ない、隨て經濟封鎖をされた場合に自動車に乘る時には或は護謨のない車に乘らなければならぬことになるかも知れませぬ。其他の生活上必要な物は大體滿洲で出來るから自給自足が出來る狀態であります。所が何故さう云ふ所に對して日本人が發展出來ないかと言ふと總て是は支那側の日本に對する壓迫に起因するのであります。日本が滿蒙の經營を始めましてから以來既に二十五年

になりますが、其間日本人で滿洲に移住して居る數は二十萬人、其二十萬人も大部分は直接間接滿鐵と關係ある人ばかりでありまして、向ふで自活獨立して居る人の數は非常に少い、と申しますのは大正四年に日本は支那と交渉致しまして滿洲に於て日本人が土地を借りて宜しいと云ふ條約を結んだのであります。然るにそれを結んで一箇月すると支那側がどう云ふ態度に出たか、詰り農業、商業、工業を營むために自由に土地を買つても宜いと云ふ商租權に對して支那は賣國條例と云ふ法律を出したのであります。是はどう云ふ條例かと言ふと、日本人に土地を賣る者は國を切賣りする人間である、隨て賣國奴であるから日本人に對して土地を賣つた者は直ぐ首を切ると云ふやうな非常に嚴酷なる法律を出したのであります。さう云ふ法律が出ました爲に、如何に命よりも金が大事であると思つて居る支那人も日本人には土地を賣りませぬ、そこで日本人は土地を買ふことが出來ないから自然發展が出來ないと云ふ有樣であります、商賣を致すにしましても日本人の店の前には支那の警官が番をして居る、是は有難いと思つて見るとさうではなく日本人の店に買物に來る者を番をして居るのである。それから今まで家賃五圓であつたものを五十圓に上げると云ふ風に法外に家賃を上げる爲に日本人は放出される、家を借りることも出來ないと云ふ有樣である。又朝鮮人はどうか、元來滿洲の土地を開いたのは朝鮮人でありまして、支那人は水田事業が出來ない、水の中に足をつけると風邪を引きます、支那人は雨が降ると殆ど外出致しませぬ、明日あなたの所に行くと約束してあつても其日に雨が降ると來ない、雨が降ると外に出ないと云ふ規定になつて居る。斯の如く足を水につけることが嫌ひな國民でありますから勿論水田事業は出來ませぬ。所が朝鮮人はどん〳〵水田事業をする、それを見て支那人も金儲けをしようと云ふので段々足を水につけるやうになつて水田事業も支那人の手に移るやうになつたのであります。又滿洲は支那では最も樂天地であります。隨て支那本土から滿洲に行く支那人の數は百萬人、さうして水田事業を開きます。此處でどうなるかと言ふと其擧句は朝鮮人と民族鬪爭を開始する、遂に支那人が朝鮮人の壓迫に取掛つたのであります。此前事件がありまして日本の軍隊が吉林の監獄を取つたのでありますが、其監獄に朝鮮人が百七十名程繫がれて居つた、而も長い者になると八年間、其鎖も錆びて之を剝すのに鍛冶屋を呼んで來て切つたと云ふ話があります。是等の百七十人の朝鮮人は總て共產黨と云ふ理由で繫がれて居る、所が決して共產主義でも何でもなく唯彼等が朝鮮人の水田を奪ふ爲に共產黨と云ふ名前を付けて監獄に放込んだのであります。吉林だけで百七十名、其他日本人の發見しない場所で幾らさう云ふ風なむごたらしい目に遭つて居る者があるか分らない有樣であります。朝鮮人が支那人から金を借りますと大概一ヶ月二割乃至三割、多い時には四割の利子を取られるのであります。さうして其借金が段々利が利を生むと云ふ有樣で、到頭終ひには自分の娘或は妻までも抵當に出さなければならぬと云ふ風な狀態になつて來る、もうさうなれば娘も妻も受出すことが出來ない、國にも歸れないと云ふ泣きたくも泣けない苦しい目に遭つて居る朝鮮人が幾ら居るか分りませぬ。彼等朝鮮人は日本人の保護は餘り好まない、又滿鐵沿線から離れて居るから日本の領事館警察等の保護が加はゝつて居ない、さうして日本人なるが故に支那人からは壓迫を蒙つて居る、洵に憐むべき者は我等の同胞朝鮮人であります。斯の如き有樣で滿洲に居ります朝鮮人は百萬人居ります、其百萬人の朝鮮人は大なり小なりに支那人の爲に壓迫を蒙ります。萬寶山事件、其他本溪湖事件、是等は總て朝鮮人が支那人から受けて居る壓迫のホ

ンの一端であります。或は先輩同胞が日露戰爭に於て血を流し骨を埋めて得た所の滿洲、而も其後日本が十七億の金を投じ色々の文化施設をして居るに拘らず其利益を得て居る者は我が朝鮮人日本人にあらずして支那人其者であります。支那人其者の爲に吾々日本人朝鮮人は非常なる壓迫を蒙つて居ります。吾々同胞が支那人の爲に非常なる虐待を受けて居るのが滿洲の狀態であります。滿鐵は支那人の爲に建設されて居るやうなものだ、まるつきり吾々は自分の拳で自分の頭を擲つて居ると云ふ立場に現在立つて居るのであります。

其他鐵道問題に致しましても、滿鐵は色々の培養線を周圍に造つて其鐵道から滿鐵に旨く物資を流し込まふと云ふ計畫であつたのでありますが、支那側で造つた培養線或は並行線の競爭線に物資が流れ込んで滿鐵は大打擊を蒙つて昨年の如きは三千萬圓も減收して居る。其上支那側は滿鐵を包圍する爲に非常に莫大なる計畫を致しました。或る外國の如きは支那側の後援をすると云ふ風な有樣で、此儘推移するならば日本は滿鐵大連を持つて居つても、滿鐵を支那に還し大連を取られたと同じ樣な狀態に立至つて來たのであります。此支那の滿鐵包圍計畫は、皆さん地圖を御覽になると分るのでありますが支那が滿鐵に入る品物を積取つて支那側に持つて行く爲に作られた計畫でありまして、實に偉大なる計畫であります。是はずつと前に孫逸仙が立つた計畫であります、孫逸仙は支那では孫大方——ソン・ターター即ち法螺吹きと云ふ意味であります。法螺吹きである孫逸仙が立つた法螺其ものである計畫を滿洲の政府が實行することになつたのであります。是が實行されました擧句の端は先程申しましたやうに滿鐵及び大連はあつても無きが如き狀態に立至るのは時日問題であると云ふ風に思はれたのであります。隨て吾々は此機會に日本が正當に得て、而も支那側の

不法行爲に依つて失はれた權益をどうしても回復しなければならないのであります。而して此商租權回復に依つて吾々日本人は裸一貫で彼處に行つても呑氣に働いて食つて行けると云ふやうな自由境樂天地を造らなければならぬと云ふのが吾々の希望であります。若しも此機會に滿蒙問題を解決しないで支那側の色々な排日排貨の前に膝を屈するやうな場合があつたならばどうでせう、支那側はそらどうだと云ふので日本に對する戰法を變へて、排日をウンとやつて宜しい、若しも日本が支那に對して戰爭をやると云ふことになつて來れば支那は國際聯盟に訴へれば宜い、或は亞米利加に訴へれば宜い、さうすれば國際聯盟が日本を壓迫するであらう、亞米利加が日本を壓迫するであらうと云ふことを思ひまして此上排日がどん〳〵ひどくなることは火を睹るよりも明かであります。今までは年々歲々支那本土に排日が起りました、さうして排日が起る度に日本の方から悲鳴が擧がりまして遂に支那の無法なる行爲の前に膝を屈したのが今までの歷史であります。若し今度も其前に膝を屈することがありましたならば、支那は益々增長して尙更排日の火の手を激しくして遂には文字通り日本は滿蒙から撤退しなければならぬやうな狀態に至ることは今から豫想して決して間違ひないのであります。

私共が一番心配するのは國內の問題であります。國際聯盟や或は英吉利或は亞米利加と云ふやうな外部の問題が少しも心配の要らないことは先程申上げた通りであります。最も心配なのは國內の問題であります、今まで日本は支那側から年々歲々絕え間なく排日を受けました、さうして排日がひどくなつた場合には反對の政黨がまるつきり支那側と結んだやうな態度を以て現在の政府を壓迫すると云ふ風な態度に出ました。それが爲に政府も强硬なる主張を支那側に對して執り得なかつたと云ふ狀態にあつたの

が現在までの僞らざる事實であります。北京に大學があります、其北京大學の外交史の先生が學生に色々の政策問題に付て講演したのであります。其際に日本に對する政策は何等困難はない、日本の政府の反對の政黨と結んで現在の政府の政策を攻擊すれば、必ずや日本は支那の前に屈服すると云ふことを公言致しました、それは新聞に出たのを私は見たのであります。而も今回再び斯の如き狀態になりましたならば、只今申上げた外交史の先生が述べたやうな政策を愈々益々固き信念として日本に向つて來ることは明かであります。外の問題は毫も心配は要らない、唯問題は內の問題である。殊に支那と直接貿易に關係ある實業家、さう云ふ風な人々が何かしはせんかと云ふことが非常に心配であります。年々排日があります度に排日の直前には支那に向つて澤山品物が出ます。それは既に排日が近いと見ますと支那人は一氣に日本の物品を買ふのであります。無論排日をやります間は日本から支那に出る品物の量は減るのでありますけれども、亦排日が濟むと一氣に品物が行くのが支那の貿易關係であります。何故さうかと言ふと支那人はまだ文化の程度が發達して居りませぬ、隨て日本の品物は消費出來るけれども、歐米諸國で生產した所の品物は消費する力がないのであります。長江揚子江筋に於ける英吉利の貿易が振はなかつたのも其原因の一つは只今申したやうな有樣でありまして、英吉利の商品を支那の上流階級は消費するけれども一般階級は消費出來なかつた、日本のは支那人に對しては持つて來いの品物であります。でありますから排日をやる間は日本の品物は行かぬけれども亦排日が止めば出て行く、亞米利加の品物を買つて日本の品物の代用をさせやうと云ふことは出來ない、どうしても日本の品物を入れなければならぬと云ふことは當然であります。そこで今まで排日が長續きしますとレッテルを貼代へた

品物が日本から入つて居る例があるのであります。どうしても日本の品物が入らないと支那の民衆が困る、唯排日が長續きすると日本の實業家が苦しいのは當り前であります。併ながら滿蒙問題が解決しますと支那に於ける排日そのものは當然下火になりはせぬかと考へるのであります。是は先づ私としては確たる結論をあなた方に申上げることは出來ぬのでありますが、滿蒙問題が解決されるとそれに對して支那人が憤激し支那本土で排日が起るだらうと言ふ人と、一方支那本土に於ける排日は減るだらうと云ふ人とがありますが、私は後者の方であります。と申しますのは只今申したやうな譯で支那人は日本人が造つた品物が一番好い、排日をやれば適當な品物が入らぬから自分が不自由である、又軍閥の連中も日本から品物が行かぬ爲に關稅の收入が減りポケットに入る收入も減ると云ふ譯で困る、唯日本人に苦しい目を遭はしてやらうと云ふのが支那の排日の起る機であります。所が滿蒙問題が解決されると日本はどうなつても滿蒙との間に自由なる貿易が出來る、支那本土は滿蒙から資源を取つて之を生產して滿蒙に送ることが出來る、隨て支那本土では苦しい目に遭つても支那全體としては損失がないから、日本人に大なる犧牲を與へるやうな排日を算盤高い支那人が執る筈はないと云ふ考もあるのであります。

最後に皆さんに申上げたいのは、滿蒙問題解決は滿蒙を結局（○○○○○）にしなければ解決が着ぬのであります。此度の滿洲事變の結果は如何になるかも知れませぬが、一氣に滿洲を（○○○○○○○○）事は不可能でせうけれども、最後の目標を其處に置くことは必ずや必要である、唯今度の解決はそれに至る前提であらうと思ひます、其前提を逐次發展して最後に日本の希望する完全なる解決まで持つて行かなければ止まないと云ふことが絕對に必要であるのであります。又在支那の方面、之に對しても一度

我國の實力を見せなければならぬと吾々は覺悟して居るのであります。と云ふのは支那人は增長させれば際限なく增長する國民であります。支那人のボーイを使つても甘い顏を見せれば幾らでも增長する、そこで甘い顏を見せることも必要であるが必ずや片方の手は拳固を振上げて居らなければならぬと云ふのが支那人を使ふ用件であります。外交も亦其通りであります。南支那の支那人は日本が强い事を知らないのであります、北の方の支那人は日清戰爭や北清事變で日本の軍隊の强い事は眼の當り知つて居る。現在揚子江には日本の軍艦も非常に小さいのが行つて居る、支那人は日本の軍艦はあんな小さいのしかないのだらうと思つて居る、だから一艘大きな艦が行つたらあれは借り物だらうと言つたさうです。今揚子江には非常に小さい軍艦で一時間六ノット位しか走らぬのが置いてある、それが日本の海軍の實力であると誤解して居る。或る時機に達すればの實力を見せなければならぬと云ふことはどうしても實力を見せなければならぬと云ふことはどうしてもやらなければならぬ事です。滿蒙問題解決と共に支那本土には何時か實力を見せて永久に排日の原因を取除かなければならぬと思ひます。支那の讀本を見ましても、小學校から中學校大學に至るまで總て書物には排日教材が旨く織込まれて居ります。此排日教材を以て教育されて居る子供が成長しますと、彼等は既に骨も髓も排日を以て乾固つた人間が出來ます。是が實に吾々は恐ろしいと思つて居りますが、排日を根柢的に瓦解させ其原因を絶對的に除去する爲には教科書から改めさせなければならぬと思ふのであります。斯の如く根本的に排日を除去する爲には一度どうしても南支那に對して我國の實力を示す必要があり其機會の到來を私共は待つて居る次第であります。現在我軍の滿洲に於ける數は極く僅かで一萬數千でありますが、此僅かの數で數十萬を算へる支那軍隊を抑へて居るのであります。よく新聞を

見ますと日本の軍隊が活動した事が大きな活字で現はしてありますので、滿洲至る所日本の軍隊が居るやうな氣がしますけれども、實は一萬數千しか居らぬ、此僅かの兵力を以て日本人の生命財產を保護し鐵道を擁護して居るのであります。而も我が一萬數千の軍隊は便衣隊の追拂ひの爲に東奔西走致しまして實に奔命に疲れると云ふやうな有樣であります。現在北滿は零下三十度、斯の如き寒い土地、而も便衣隊を追拂ふ爲に奔命に疲れると云ふ有樣であるが、一意目的の達成に努めると云ふことは唯今度の問題が日本の生きるか死ぬかの生存問題であると云ふことを一兵卒に至るまで完全に自覺して居る結果であります。さうして內地に於て國民の絕大なる支援があるからであります。若しも途中に於て輿論が軟化したならば滿蒙問題の解決が着かぬのみならず、支那に於て年々歲々排日をやらせる有力なる機會を與へると云ふことになつて來る。最後は其排日が原因して結局滿蒙から退却しなければならなくなつて來る。さうすれば元も子もなくなる、而も斯の如く苦勞して居る我が軍隊の行動は洵に水の泡となるのであります。現在は唯强氣一點張りの外はありませぬ、國論を統一して國民一致協力して政府を鞭達し吾々軍部の行動に對して絕大なる支援を與へて戴きたいのであります。賴山陽先生の詩に「國の士氣あるは尙ほ家に柱あり船に舵ある如し、船舵なければ覆り家柱なければ傾く」と云ふ言葉があります。蓋し吾々の要求することは國民の一致協力する所の元氣其ものであります。只今は勇往邁進突擊のみが必要である。外の問題は毫も恐れる必要はない、唯問題は內の問題、而も此內の問題の爲に必要なるものは元氣其ものであると云ふことを申上げて壇を降りたいと思ひます。（拍手）（文責在記者）

開顯統一と日生上人（坤）

商學士　中村清一

吾等は本多上人より宗教上の決定信を授けられたと同時に、この開顯主義の妙處を示されたことによつて、世間一切の事柄に對して最も適切なる態度を教へられたのである。實に、日生上人は開顯主義そのものゝ典型的なる權化であらせられた。恩師が日蓮聖人の人格を賞讃せらるゝや、常に、聖人を智情意三方面に於て最も圓滿に發達せる理想的人格なりとなすと共に、この三方面の根柢に常に一貫せる至誠が活躍してゐる點を力說せられた。至誠は即ち人格に於ける第一義である、この至誠より發して、而も、日常の萬事萬端に適切なる解決を與へつゝ圓滿なる生活をなして行く所に、理想的人格の典型的なる妻があるといふのである。而して吾等より見れば恩師自身が常にこの教の模範的なる體驗者であられた。師は本佛に對して拜跪するときや、正義人道の事について語られるときには、常に肅然として妻を正されたのであつた。如何なる場合にも第一義を犯すものに對しては斷乎として之を排擊せられた。而も、日常の生活や談話に於ては何ともいへない慈愛と餘裕とを示された。吾々の恩師に對する畏敬は全くこの儼然たる正義觀と綽々として餘裕ある大丈夫らしき生活態度とに對してゞあつた。而してその教へらるゝ所は常に一乘の開顯主義であり、その佛教思想に對する態度も常に開顯主義によつて一貫して居られたのである。

諺に味噌の味噌くさきはよき味噌にあらずといふ。同樣に商人の商人くさきはよき商人でなく、僧侶の僧侶くさきは決して一流の僧侶ではない。落語一つ聞いても下手な人は如何にも落語家らしき臭味を脫しない。凡て一藝に達せる人はその一道の極意を遺憾なく發揮すると同時に、その一道に捕はれざる堂々たる廣さと深さとを持つてゐる。恩師の佛教觀はこれである。師の三教融合觀は、單に三教が日本傳來の思想であるから融合したらよからうといふ樣な淺薄なものではない。恩師が三教の精髓を究めらるゝや、そこに人性そのものに根ざす所の何れにも一貫せる極意を見出されたのである。その極意より見るとき、歷史上分立し來つた三教は自づから一點に歸着するのである。まこと、あかき心、仁、義、慈悲、禮、恩、敬、信、菩提心等といふが如き種々の名を以てあらはされたる東洋精神の心髓は、實に、千古易ることなき人間の大道である。この易らざる大精神より見るとき、佛教の學說も決してその外に出づるものではない。夫々の細かい教義はこの一貫せる大道を種々に莊嚴する寶物に他ならないのである。この點より見て、些々たる局部的の學說に捕はるゝことなく、佛教そのものゝ心髓を遺憾なく發揮せられたのが、かの「大藏經要義」の特色であつた。要義は要文講義を省略したるものであつて、その要文は經典が直ちに佛教の生きた生命に觸れてゐる所を拔萃して、それにより一見直ちにその經典の心髓に達せしむる所のものである。而して、この要文に連絡を與へ、そこに佛教の眞精神を捕へしめんとしてその極意を授けるものが即ち講義である。これが開顯主義に最もふさはしき恩師獨特の佛教講述法である。

吾等はある思想を理解する上に、その所論に對して最も忠實にありのまゝの意味を理解すると同時に、他面にはあくまで理性に訴へ批判的に見て行くことが必要である。このことは佛教經典の如き簡結にして而も深遠なる文章に接するとき、特に必要なる態度といふべきである。尋常の師は文を講ずれば文の末に走り、文を離れて批判的に見るときは全く原文より遠ざかるの失に陷る。凡て宗教道德の教に對しては、一面にあくまで人間の道德的宗教的理性をはたらかせて取るべきを取り捨つべきを捨てる批判的な態度が必要であると共に、他面自己の信ずる經典に對してはその最も忠實なる遵奉者でなければならぬのである。この二點をよく調和し得ずして、徒らに古來の傳說に拘泥するときは所謂味噌くさき宗教家となり、他方、單に理智のみに訴へて經典を顧みざるときは素人くさき宗教論となるであらう。これに反して恩師の講述は經典の字句を講義するその中に直ちに人間理性の最高原理をはたらかし、卑近な日常生活の事柄を說いてゐる中にそれがそのまゝ佛教の最も深遠なる教義の解說となつてゐる。こ

の點は、私が述べるまでもなく、恩師の書をよみ講義をきくものゝ凡てが一樣に讃歎指かざる所であつた。而してかくの如き佛教の講述に對して要文講義の方法が最も適してゐることは、恩師の著書によつて遺憾なく立證されてゐる所である。

之を要するに、日生上人はその人格思想並に活動の全體に亘つて開顯統一主義の權化であつたといふべきであらう。法華經は開顯主義の經典であり、日蓮主義も亦統一主義の教である。而して日生上人がかくの如き開顯統一主義を徹底的に發揮した人格であつたことは、即ち、恩師が現代に最もふさはしき形の「法華經の行者」であつたことを語るものではあるまいか。(了)

記事

統一團協賛會々報

『たとへば餓鬼は恒河を火と見る、人は水と見天人は甘露と見る、水は一なれども果報にしたがつて見るところ各別也』同じものでも其人の因緣果報によつて全然正反對の觀察をする實例は、世間に屢々目擊する處である。

恩師日生上人が、永い間御考案遊ばした結果、統一團はどうしても一日も早く財團法人にして置きたいとの御計畫から本會が生れた、此の淨き高い遠大の理想實現への第一着として、法人組織になすことさへ毀譽褒貶交々到るといふ鹽梅であつたが、私共は一意專心忠實に　恩師の御心を仰ぎ、他を顧慮することなく、同志の者協力淨業達成へと驀進を續けた。幸に　日生上人の恩德を追慕さるゝ各方面の特志者並に同志は、法を擁護し國を思ひ成佛道へとの猛烈なる熱誠の前には、身命さへ捧ぐる意氣あり、況んや財寶位は易々たるものと、潔く此の不況の眞最中に巨額の喜捨を致され、其の活きた大きな教訓にいたく胸を擊たれた、想へば一層私共の責任の重且つ大なる事を痛感致す次第である。偉なる哉恩師の御道德と涙は止め度もなくつたふ。玆に恩師の御理想實現への一歩を踏み出すと同時に、其貴い純なる各位の篤い御芳志を、一歩々々健實に有意義に活躍せしむべく、私共は全力を傾注致さねばならぬ。假令一紙半錢なりとも徒費することは本心の許さゞる所である。顧みて私共は力足らず菲才不德　恩師はいふに甲斐なき者共と愍笑されてゐやう。併し私共は更に一段と研鑽に勉め又各位の御熱誠なる御鞭撻に依り、何卒　恩師上人の芳躅を汚さぬやう、お互に手をとつて精進致したいものであります。

南無妙法蓮華經

統一團法人組織に對する寄附者芳名（自三月十七日至四月十六日）

一金參圓也　東京　菊地雄三殿（第二回）
一金參拾圓也　千葉縣　藤崎喜三郎殿
一金五拾圓也　東京　北條平太郎殿（第二回）
一金參百圓也　同　横山正三殿（同）
一金六百圓也　同　伊東竹三郎殿（同）
一金五百圓也　横濱　中村清兵衛殿（完納）
一金壹千圓也　東京　井上道太郎殿（同）
一金五百圓也　横濱　磯部滿事殿（同）
一金壹百圓也　同　齋藤勇吉殿
一金五百五拾九圓也　東京　無名氏殿
一金五拾圓也　同　内海頴二殿（第一回）
一金參拾五圓也　大森　常修院日成殿（完納）
一金壹百圓也　名古屋　岡本藤次郎殿（即納）
一金壹百圓也　東京　無名氏殿（第二回）
一金四百圓也　同　山田英二殿（完納）
一金七百五拾圓也　同　柴田武治殿（同）
一金貳拾圓也　千葉縣　小澤元重殿（第三回）
一金貳百圓也　横濱　岩上浦三郎殿（第二回）
一金壹百圓也　東京　平井三造殿（同）
一金拾圓也　同　山口智光殿（第一回）
一金五千圓也　同　上田辰卯殿（即納）
一金壹千六百五拾圓也　同　無名氏殿（同）

申込總計金貳萬九千四百參拾參圓四拾貳錢也
既收累計金壹萬七千參百拾八圓四拾貳錢也

會員總會　昭和七年四月十五日午後四時より、淺草報恩閣に於て總會を開催せるに、出席者及び權利委任者合計八十二名に達し、其規約を協定し、之が認可申請人を擧げ且つ必要に應じ字句の修正は申請人

一任を以て、同五時滿場一致議事終了し五時三十分散會せり。

寄贈書籍に對する禮狀

前號記載の　恩師日生上人御一周忌に際して、各方面へ寄贈せし記念圖書に對し、夫れ〴〵禮狀を寄せられた。其中二三を左に掲げさせて頂きます。

肅啓

這般本多日生上人ノ御忌日ニ際シ御傳記並御遺著御頒與ニ預リ感謝ノ至リニ不堪　特ニ御傳記ハ初メテ拜讀　上人ノ御面目躍如感興不淺少候　永ク高風ヲ仰ギ可申何レ參詣ノ期ヲ得可申候ヘ共不取敢御禮御挨拶申上度如斯候　頓首々々

小倉恒司

謹而啓上仕り候

ゆく光陰に關守なくして旦夕敬慕措く能はざりし本多現下御遷化被遊しより早くも一年間を經過致し候　其間私共不敏にして碌々と爲す所も無く　御鴻恩之萬一にも報ひ奉る事さへ不叶慚愧に堪へ不申候

然るに今回は御記念之御品々御下しおかれ　特に現下の御傳書早速拜見御在世中の御近影を拜しては漫ろに往時之御尊咳を偲びて潮の如く湧き出る堪へ難き暗涙に咽び申候　稍暫時にして氣を取り直し永く御高教の御形見とおし戴き恭しく拜受仕り候何れ東上の機もあらば是非御墓前に參詣致し度と存じ上候へども先はとりあへず以愚書　謹而御禮言上致し度如斯御座候　恐々謹言

三月廿日

京都銅駝小學校長

上野礒治郎

啓白

春暖之節　貴會益々御隆昌奉賀候　陳者先般「日蓮主義本領」「日蓮主義眞髓」及び「本多日生上人」の各一部宛御惠與被成下候事感佩措く能はざる所に御座候　就ては本校は永遠に此書を寶藏して修養に資し且つは上人の御人格を偲び以て貴會の御期待に背かざらんことを奉希上候　茲に乍略儀以書中御禮申上度如斯に御座候　敬具

昭和七年三月廿五日

名古屋市立盲啞學校長

橋本德一

拜呈

春寒料峭之候愈々御清榮之段奉賀候　偖而故本多日生上人第一周忌に際しその著

日蓮主義本領

日蓮主義心髓

及び本多日生上人　各一冊

御寄贈被下誠に難有存じ御禮申述候

思想問題の八ヶ間敷今日右好著を得て指導さるゝ事は誠に愉快に存候　直に一般の閲讀に供し十分に貴意に伴ふ可く存候間御安神被下度願上候

右不取敢乍略儀御禮のみ申上候　艸々

加西圖書館長

大橋秀吉

合掌

時下將ニ春暖之候ニ御座候處　尊台愈々御清昌ノ趣邦家之爲慶賀ノ至ニ不堪候　陳者過般ハ御鄭重ナル御惠與ニ預リ生身ニ泌ミテ辱ナク過分ノ御芳志ニ深ク感激仕候　日頃青年運動ニ微力ヲ捧ゲツヽアル傍ラ深ク　大聖日蓮聖人ニ歸依シ田中智學先生ノ著述ニ親ミツヽアルウチ　本多日生上人ヲ敬仰私淑スルコトノ切ナル己レヲ發見シ　イツカハ上人ノ遺教ヲ繙キ度キ念願ヲ捨テザル矢先　不圖御著ヲ始メ上人遺著ニ接スルヲ得　感慨頻リニ深キヲ覺エ申候

茲ニ忙中閑ヲ得テ心靜カニ御芳情ニ涙シツヽ聖賢ノ道ヲ學ブノ光榮ニ浴シ度　先ハ書中甚ダ恐懼ノ至リニ存候得共厚ク御禮申上候

早々御禮言上仕度候ヘ共長ラク不在ノ故ヲ以テ延引ノ餘議ナキニ立至リ申譯無之候ヘ共　ソノ邊惡カラズ御寛怒相仰ギ度　今後聖旨ヲ體得シテ鴻恩ノ萬分ヲモ報ジ度ク廣ク青年ニ傳ヘテ御溫情ノ寛ク偉ナルヲ感謝致シ度存念ニ有之候

時候不順ノ折柄切ニ御自愛ノ程祈上候　頓首

四月五日

北桑田郡聯合青年團長

岡本逸三

見聞錄

愛國には知法

先頃血盟團の橫行に、彼等が日蓮宗だとか、南無妙

法蓮華經の玄題が襟衿に書かれてゐるとかで、唯さへ誤まれ易い日蓮聖人が、益々世間では誤解を増し排斥さるゝであらうと、連りに義憤を漏されてゐると、傍の一人曰く、『さう氣にし給ふな、彼等の暗愚はさること乍ら併し彼等は決して賣國奴でない事丈けは慥である、日蓮主義は賣國奴に非らず』と　此言甚だ簡にして意極めて深長！

愛國運動は最も必要であるが、それには根本にしつかりした教法を辨へてかゝる事がない時に、恐るべき結果が生れる、立正で始めて安國である、法國は冥合ならざる可らず。

教育と米化

ある縣の學務部長が『日本を亡すものは日本の教育と而して教育者諸君だ』と其縣の教育者を集めて話されたのは敢て暴言でも過激でもない、眞に國を思ふ者は衷心より刻下の世相を憂ふるのである。凡そ一國の盛衰興亡は一に國民の人格如何に歸すべきであらう。こゝ數年間に我國は都鄙を通じて官民共に歐米化が甚しい、特に近い丈けにアメリカニズムの侵略に舉國風靡されんとして居る、危い哉である。殊に青年學生の大多數、一入目立つのは若い婦人の風俗習慣に急激の惡化を示せるは大に警戒を要する、それはかの非國家的の共產主義などよりも、數倍この俗惡な米化こそ譬へば癩菌の如きものである。さればこれを治療するには東洋固有の精神文化の精髓を注射するよりよきはあるまい。

全生病院を見舞ふ

先月八日花祭りを機會として府下東村山の一府十一縣立の全生病院を小野鎌雄師の案内で井上一次中將と共に訪づれた。

所澤驛より約一里、田無街道に沿つた曠野に八萬一千餘坪の敷地に數十棟の完備せる施設を以て、朝夕不二の靈峰や秩父の秀嶺に接して、身の病患を打忘れ、同情に充ち滿てる數十の職員達と、別世界の超然たる平和の極樂境に千名以上の氣の毒な人達が、一大家族生活を營まれて居る、見るもの聞くもの一として心をひかれざるはない。

此日は生憎曇天で冷たい山風の中をば數十分間約七十名の青年、少年、少女團が、晝餐後林院長の案内で、陸軍中將井上一次閣下に夫々御檢閲を願つた。

各團隊が一糸亂れず整然として健全なる者と少しも變らぬ教練振りには、私共感歎之を久うした。

續いて　釋尊の御降誕會が市中にさへ見受け難い百三十坪の新禮拜堂に、立派に莊嚴された氣持のよい中に、林院長の開會の辭に次で一同が樂し氣に聲高く花祭の歌を合唱した。順次來賓としての祝辭や講話が、佛教濟世軍の關藤靜照氏や自分や井上閣下に依つて述べられ、これに對して次に患者の側より先づ森川捨次郎氏が日蓮宗を代表して挨拶され次に一同の短歌朗詠があつた。

み佛の惠みの露は病む人の
あらだつ心うるほしにけり

何といふ涙ぐましい三十一文字ではないか、知らぬ間にあつい滴が目に溢れる……

續いて佐藤文七氏は舍長總代で祝辭を述べ、次に少年團の歌、眞宗總代の悲痛な感想、及び少女團の歌、そして眞言宗總代の閉會の辭と最後に一同は起つて院歌を合唱して散會したのは午後四時、外には慈雨條々として靜かであつた。

願くば志の篤い人々は、我病める同胞に慰めの言葉なり、精神修養の書物なりを送つて頂きたく思ふ。

知法思國會街頭布教

冬籠をしてゐた本會は、彌々四月十六日本多上人の御命日から向ふ一週間、五反田驛前　芝大門前　下谷三味線堀　本郷肴町　池袋驛前　本所太平町及び三ノ橋に於て毎晩七時より九時半迄、柴田一能師陣頭に起つて門下各派の僧侶有志が、聲を限りに國民精神の作興に力めてゐる。將來の布教は殿堂より街頭へと進出すべきであらう。

滿洲國を淨く保て

西南に萬里の長城を控へ、西は興安嶺の天嶮と荒涼たる外蒙古に據り、北はアムール河を以てロシアと接し、東はウスリーを以て沿海州に、南は豆滿江鴨綠江を以て朝鮮に接せる新滿洲國は、今や將に世界の中心たらんとしつゝある。內地で生活苦に追はれた者は、滿洲に往きさへすれば、濡手で粟の樣に思つて飛び出し、飛んでもない窮地に陷り、せめて旅費丈け出來れば何とかして故鄉へ歸りたいと、泣き乍ら其日を過ごす者もあれば、意外の好機を執へて

夢中となり、遂には發狂するに到る者もある、各人各様の境地を得て悲觀も起れば樂觀にも轉ずるが、併し吾人の大切と思ふ點は、この新國家へ移住する人々は一時的でなく從つて殖民ごろの如きは絶對排斥で、特に心身の强健な者で、永住すべき覺悟を有せる者、宗教の正しき信念に安住し質實剛健であつてほしい、全く最初の入國者人格が、將來に亘つて大影響を與へるものなれば、移住渡滿者の身元調査は嚴格であること申迄もない、既に大連には「無數の渡滿者取締要望の聲」が旺んである。折角の希望を以て、理想鄉たらしめんとしてゐる彼女を尊重し之を實現せしめたいものである。

團費誌料領收

自三月二十一日
至四月二十日

一金六圓也　東京　笠間信語殿
一金貳圓四拾錢也　大阪府　馬場政嗣殿
一金壹圓貳拾錢也　福島縣　安達正玄殿
一金貳圓貳拾錢也　久留米　平岡越郎殿
一金貳圓　京城　淺川峰代殿
一金四圓四拾錢也　大阪　西川寅吉殿
一金五圓也　岡山　須山茂三郎殿
一金壹圓貳拾錢也　東京府　今井亀吉殿
一金五圓也　川崎　廣瀨乾雄殿
一金貳圓貳拾錢也　東京府　御厨正幸殿
一金壹圓貳拾錢也　濱松　佐伯有台殿
一金貳圓四拾錢也　川越　原　次郎殿
一金壹圓五拾錢也　千葉縣　中村正治郎殿
一金壹圓貳拾錢也　福島縣　中島元道殿
一金貳圓貳拾錢也　靜岡縣　桑原斌有殿
一金貳圓貳拾錢也　福井縣　平池岩吉殿
一金貳圓貳拾錢也　東京　齋藤又治郎殿
一金貳圓貳拾錢也　同　後藤源次郎殿
一金六拾錢也　府下　長澤信一殿
一金貳圓貳拾錢也　濱松　彦坂寅吉殿
一金貳圓四拾錢也　靜岡縣　川島直次郎殿
一金六拾錢也　大阪　片岡しゞ殿
一金貳圓貳拾錢也　同　遠藤實照殿
一金貳圓貳拾錢也　東京　齋藤タネ殿
一金貳圓貳拾錢也　名古屋　松村楢一殿
一金壹圓貳拾錢也　神戸　倉藤喜一郎殿
一金八圓九拾錢也　靜岡縣　佐原伊平殿
一金四圓五拾錢也　山形縣　赤谷重郎殿
一金貳圓貳拾錢也　東京府　古澤たみ殿
一金貳圓貳拾錢也　横濱　吉田三郎兵衛殿
一金四圓五拾錢也　神戸　辻　俊泰殿

一金五圓六拾錢也　福井縣　妙海寺殿
一金貳圓貳拾錢也　大阪　小澤珂殿
一金貳圓貳拾錢也　靜岡縣　川手海祥殿

右難有入帳仕候也

「統一」會計

御注意

一、團費、誌料は總て前金に願ひます
一、「前金切」御注意致し二ヶ月に及ぶも御拂込なき場合は乍遺憾御送本見合はすことあります
一、集金郵便は參圓以上にて其取立には團費誌料の上に金拾錢の集金料を添加致します
一、御轉居の節は必ず新舊双方を御明記御通知下さい

聖語

般泥洹經ニ云ク善男子過去作無量諸罪種種惡業是諸罪報或被輕易或形狀醜陋衣服不足飯食麤疎求財不利生貧賤家及邪見家或遭王難等云云。又云及餘種種人間苦報現世輕受斯由護法功德力故等云云。此經文は日蓮が身なくば殆ど佛の妄語となりぬべし。一、或被輕易二、或形狀醜陋　三、衣服不足　四、飯食麤疎　五、求財不利　六、生貧賤七、及邪見家　八、或遭王難等云云。此八句は只日蓮一人が身に感ぜり。高山に登る者は必下り我人を輕めば還て我身人に輕易せられん。

——佐渡御書——

本多日生上人名著在庫品特價提供

一聖語錄 改版 特價 送料共 金壹圓八拾錢
一日蓮主義本領 仝 金貳圓拾錢
一法華經要義 仝 金貳圓五拾錢
一日蓮主義心髓 仝 金壹圓五拾錢
一日蓮主義精要 仝 金貳圓九拾錢

礒部滿事謹輯
一本多日生上人 特價 送料共 金壹圓七拾錢

申込所 東京市外南品川妙國寺境内 「統一」發行所 振替東京五一〇七一番

一月刊「教」誌 定價一冊 金拾錢 送料 金五厘 一ヶ年前金 送料共 金壹圓貳拾錢

申込所 東京市外南品川妙國寺境内 「教」發行所 振替東京一〇九四〇番

統一定價

一部	金貳拾錢	送料五厘
半ヶ年	金壹圓貳拾錢	送料共 前金之事
一ヶ年	金貳圓貳拾錢	送料共

統一廣告料

表紙一頁	金貳拾圓
一頁	金拾五圓
半頁	金九圓
四分一頁	金五圓

前金之事

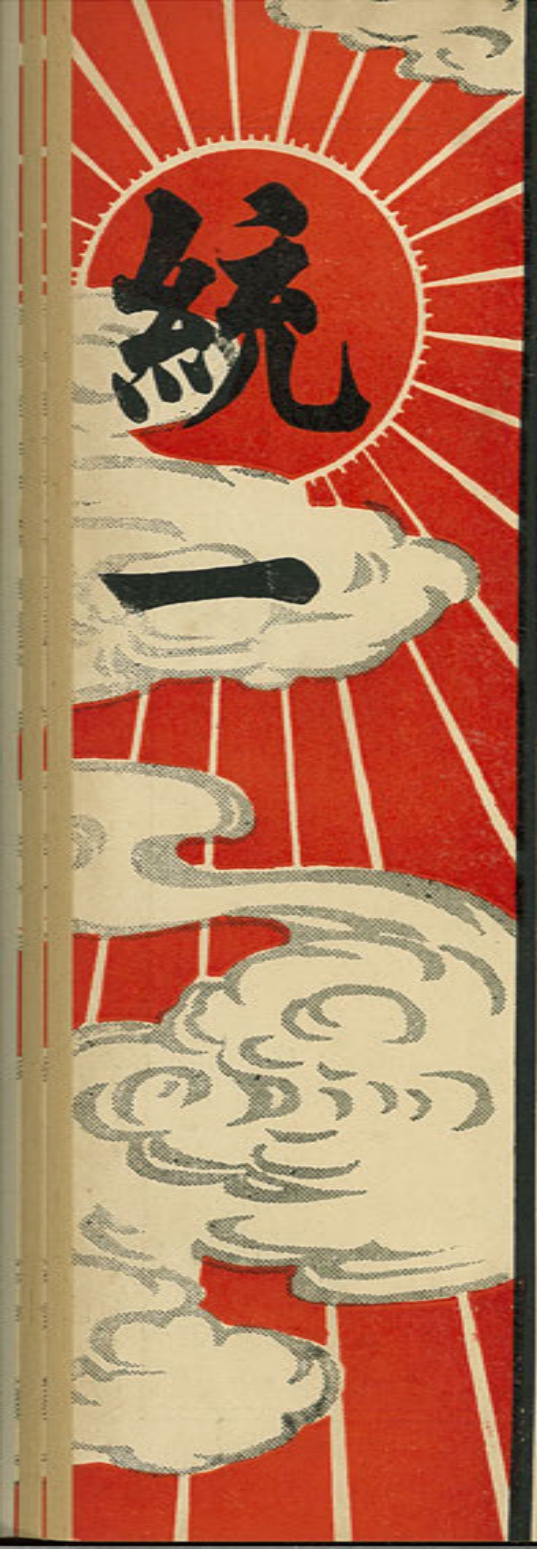
昭和七年四月廿四日印刷納本
昭和七年五月一日發行 (第四百四十六號)

神奈川縣横濱市磯子區磯子町廣地一四八
編輯兼發行人 礒部滿事
印刷人 鈴木日雄
東京府荏原郡品川町南品川百八十一番地
印刷所 都印刷所 電話高輪六〇二四番

不許複製

發行所 東京府荏原郡品川町南品川四百十二番地 統一發行所 振替東京五一〇七一番

編輯事務ハ發行所ニテ取扱フ



目次

自覺・反省……日生上人
十章鈔講義……下村壽一
宗教家諸君に望む……上田辰卯
何人の罪か……中村清一
阿含の根柢を探りて(其一)……波浪子
善知識は大因緣……波浪子
記事
○見聞錄
○教報
○團體誌料領收

第三十七年六月號